

◆ 2019 年度 活 動 報 告 シ ー ト ◆

団体名：荒川太郎右衛門地区自然再生協議会

22A-36

代表者：イベント実行委員長 川島秀男

URL : https://www.ktr.mlit.go.jp/arajo/arajo_index025.html

1. 活動が必要とされた状況

太郎右衛門自然再生地は、都市部近郊で豊かな自然環境が残されており、地域固有の生物多様性の確保や自然と共生する社会の実現への貢献が期待される地域である。

荒川太郎右衛門地区自然再生協議会は、イベント等の実施によって荒川太郎右衛門地区自然再生事業や協議会の活動を広く一般に知っていただくと同時に、多様な主体との協働・連携により自然再生地を継続的に維持していくことを目的に活動を行っている。

2. 活動の内容（実施時期、参加人数、活動内容など）

■多様な主体との協働・連携による保全活動

近隣の小学校における外来種駆除や昆虫観察等の環境学習（6月、9月：各30名）

民間企業等における外来種駆除の社会貢献活動等（9月：23名、12月：120名）



環境学習（6月、9月）



社会貢献活動（9月）



社会共生活動（12月）

■イベントの開催

4月6日	合同観察会	参加人数：13名
5月18日	散策・写真撮影	参加人数：14名
6月22日	ミドリシジミ観察会	参加人数：13名
9月28日	散策・写真撮影	参加人数：5名
10月19日	秋イベント※	申込人数：47名

※ 台風第19号の影響により秋イベントは中止



ミドリシジミ観察会（6月）

3. 活動の成果

これまでの保全活動やイベントに参加してくださった方は、自然再生事業や環境保全の意義について知っていただけたと考えている。また、近隣の小学校では、自然再生地をフィールドとして2020年度から「総合的な学習の時間」により環境学習をカリキュラムに取り入れて頂けることになった。また、民間企業団体等における社会貢献活動や社会共生活動により、多様な主体との協働・連携が広まりつつある。

4. 今後に残された課題

太郎右衛門自然再生地の豊かな自然環境を保全・再生していくための仕組みや体制について、引き続き検討していく必要がある。